

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	畑を所有し、市民や近隣の方と交流を図りながら、園芸作業による精神安定と、旬の野菜や季節の花で、回想を助けている	○	園芸福祉士をはじめとするボランティアの力を活用し、収穫祭や販売(不定期)等のイベントを検討中です
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カードを携帯し確認するとともに、日々の生活を大切にしています		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議の開催・地域作品展・地蔵盆参加時の啓発など		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	玄関先にベンチを設置。近隣のお年寄りが話しにこられたり、買い物帰りの方との交流が見られる	○	玄関先の花や作物について質問があったり、苗や花の交換等があり、今後もこの関係を継続していきたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入。作品展や地蔵盆に参加。近所の産地直売所で、出品者や買い物の方との交流を図っている	○	市の美化活動に参加。駅前を中心にゴミひらいを行っている。地域の方のねぎらいの言葉を励みに、グループホームの周知と理解を呼びかけていきたい

グループホームさくらプラザ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議等において、近隣の日中独居の老人や、認知症の方の対応や見守りに関する相談を受けたり、受け入れを行っている</p>	○	<p>緊急時に、事業所の安全を確保した上で、近隣住民への対応や、介護・医療の知識・人材の提供を行う旨、自治会と申し合わせている</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>チーム(緩和ケア・余暇・家族)で検討し生活向上に努めている。ペーパータオル。面会簿。重要事項説明書などの改善を行った</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>外食先や内容についての意見や、避難訓練についての指摘を受け、運営に活かしている</p>	○	<p>地域の行事に対し事業所として、どれだけの時間と人材が用意できるかが課題です</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>配布物の持参時や、他の市町村事業を通じてホームへの訪問があり、(立命館学生実習受け入れ他)助言等を受けている</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部の研修会に参加し理解を深めるとともに、いつでも活用できる体制をとっている</p>	○	<p>今後、職員にも勉強会の機会を確保し、周知を図ってきたい</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>市の勉強会や、ケアマネ連絡会の研修等に参加し、理解を深めている</p>	○	<p>職員間で意見を出しやすい雰囲気を作るためチームで検討し手いる。勉強会等の機会を確保し周知を図ってきたい</p>

グループホームさくらプラザ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書を用いて説明を行っている。面談や電話等で対応している</p>	○	<p>契約の書類が複数毎あり、時期をずらしたりして、混乱のないように。わかりやすい説明を心がけている</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常生活の中で、話を聞くことに努めている。意見箱や苦情対応、介護相談員の話を活用している</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>金銭管理について、領収書を送付し毎月報告している。生活全般については、年4回の個人お便りと、毎月のさくらプラザ通信にて情報発信を行っている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>交流会や面会時等に職員ならびに他のご家族様と話す機会を提供。外部相談窓口の案内を行い、相互理解に努めています</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>チーム内で検討した内容を、月1回のミーティング時に確認・検討を行い、改善や向上に努めている</p>	○	<p>事業所独自のマニュアルをチームで検討中</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>希望を受け入れる体制の確保を行っている。夕方の不穏や、夜間入浴に対応するため、2時間のみの職員を配置し対応している</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者様への紹介や声かけとともに、職員に対しては、利用者様の特性を把握し、スムーズに援助が行えるよう助言・指導を行っている</p>		

グループホームさくらプラザ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>院内研修や外部の研修を活用し、勉強の機会を設けている。外部研修等の案内を行っている</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>GH連絡会への参加や職員交流研修。市内のGH施設行事(納涼会)の参加を通して、職員同士の交流の機会を確保している</p>	<p>○ 職員交流研修の回数を増やしたり、内容の充実を図っていきたい</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩室と時間を確保。また、チーム内・職員間での意見交換や、親睦会行事を通して、ストレスの軽減に努めている</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>ターゲットプランの活用や、往診時等に職員と会話する機会を持ち、職員の特性やホームの現状把握に努めている。資格試験受験の便宜や能力給の採用。事業所外活動への理解等</p>	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居までに面談を行い、本人の理解されている状況を確認。不安の軽減に努め、ご家族の理解と協力をお願いしている</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面談や書類の説明、引越しの相談等時に、話を聞き、ホームへの理解を深めていただくとともに、不安の軽減に努めています</p>	

グループホームさくらプラザ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の将来像のパターンを説明し、必要のある場合は、特養や他のGHの紹介・在宅サービスの説明を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の見学をお願いしています。入居前にご本人と何度か面談し、顔つなぎを行っている。入居後は、ご家族・知人の協力をお願いし、落ち着いて生活していただけるよう努めています		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や日常生活を通じて、ご本人の得意なことや好きなことを探り、話を聞いたり教えていただくことにより、役割の確立に努めています	○	利用者様の話に職員の知識や技術が対応できず、失敗させてしまう場面がある。経験や勉強を重ねそのような場面を減らしていきたい
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	お便りや電話、面会時に、担当職員等が話をする機会を得、ホームでの生活をお伝えすることにより、距離感を縮め絆の再確認をしていただけるよう努めています	○	今後もご家族様にとって、意外な面の発見や回想できる機会を多く提供できるよう頑張りたいと思います
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	年賀状や暑中見舞い、七夕の短冊等、家族内での思い出の共有や、ご本人の役割の復活等よい人間関係が保てるよう努めています		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	カラオケの発表会の参加や墓参り、馴染みの美容室や商店への援助など、個人に応じてできる限り対応するよう努めています	○	利用年数がたつにつれ、知人の面会が減少する傾向にあるため、知人の方との連絡(手紙等)をとり、維持に努めたいと思います
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	口げんかや小さなトラブル等で対立されることはありますが、年長者や体調の悪い方を自然と気遣われたり、ご飯等の声かけを互いにされています。落ち着いた生活を送っていただけるよう心がけています	○	難聴の方は、被害妄想的な方が多く孤立しやすいため、特に注意して補足や声かけを行い対応しています

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院先への見舞いや施設への面会を行っています。利用後も、ご家族様から手紙や相談を頂くことがあり、担当職員や管理者で対応しています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族への聞き取り、意向の確認を行い、本人が落ち着いて生活できるよう心がけている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族への聞き取りや、サービス事業所からの情報提供などを元に、把握に努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ミーティングで現状を検討し、個人に応じた対応を心がけている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のミーティング時に現状を検討し、本人・ご家族の意向に沿う形での援助内容を計画している		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に応じて、本人・家族と相談し、援助内容を変更している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録および、担当職員の報告と合わせて情報を共有し、実践に活かしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者様、ご家族様の多様な要望に応じられるよう努めている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の幼稚園との交流や、民生委員との連絡等を行っている。消防・警察は、年1. 2回の訪問や必要時に協力・助言を仰いでいる		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	通所系サービスの検討や、福祉用具事業者との関わりを通じて、利用者様・ご家族様に情報の提供や提案を行っている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	市の長寿社会推進課が窓口となり対応してもらっている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族対応をお願いしているが、諸事情により対応ができない場合、職員で通院援助や入院援助を行っている。		

グループホームさくらプラザ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室・トイレ・入浴・共有スペース内においても、プライバシーに配慮した援助に努めている	○	安心できるように行う声かけに含まれる家族等の個人情報を、他の利用者が共有してしまうことについて検討を重ねていきたいです
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	わかりやすく簡潔に。選択肢をつくり返事を待つ。を心がけています。本人の過去歴や生活習慣を把握し、それに即した援助に努めている		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調等を見て希望を聞き提案を行って、1日の流れを作っている。活動の不活化のある方に対してはこちらからお願いするようにしています	○	予約外の急な外出(散歩・徘徊等)の希望が複数人出たときに、ここに対応できるだけの職員配置がなく、待ってもらったり、まとめたりして対応している件について検討・工夫を行っていきたい
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの美容室への援助や、美容室・化粧品購入店の固定など馴染みの関係を築けるよう援助している。服装や小物についても季節に応じた話題の提供や購入を行っている。顔マッサージ・外食時の化粧の援助を行っている		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニュー決め等で選択の機会を設けている。調理や食事時に話題を共有したり、「おいしいね」を言える環境づくりに努めている。片付け等も体調に応じて援助を行っている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個別の食品の購入や、お酒・おやつ等の提供など希望に応じて、声かけ・対応をしている		

グループホームさくらプラザ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	最小限の使用を目標に、体調や状態に合わせて使い分けている。個人に合わせた声かけを行い、失敗時も尊厳に配慮した対応を心がけている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低週3回、入浴の機会を確保し、希望に応じて時間や回数等に対応している	○	夕食後に希望が重なり、3人以上の時など、長湯の方に対応できないときがある。希望に添えるよう工夫を行っていききたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入眠時間や睡眠パターンを考慮し、入浴や傾聴や間食等の入眠環境の整備などを含めた援助を行っている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌・鑑賞会・ドライブ・買い物・畑・散歩等の援助を行い、傾聴を大切にし、自分を表現できる場面づくりに努めている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力に応じて、小銭の管理や、レジ等での支払いの援助を行っている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物やドライブ・散歩・畑等、希望に応じて対応している		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食・コンサート・作品展・祭り・運動会・墓参り・温泉・遠出等、検討のうえ出来る限り対応を行っている		

グループホームさくらプラザ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話(携帯電話の操作援助含む)等の対応や、季節の便り(年賀状・暑中見舞い・お礼状)の援助を行っている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	談話室やコタツ・ソファ等、快適な時間を過ごしていただけるよう心がけています	○	家族に確認の取れない知人の方や、本人が思い出せない方の訪問時の対応が難しく、先方の気持ちに配慮した援助が出来ればと思います
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロ」冊子を活用し、周知を図り実践を行っている		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜勤帯(1人勤務時)以外の施錠は行っていません。安全の確保のために1階を不在にするときは、事務所と窓の施錠を行っている		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中の見守りや、夜間の2階共有スペースのカメラによるチェック、夜間の巡視等で、所在の確認や安全の確保に努めている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬・消毒液・洗剤・刃物・火気・裁縫箱・食品等、状況に応じた保管・対応を行っている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防災センターでの体験学習や蘇生法、誤嚥・窒息時の対応等の勉強会等を通して知識と技術の向上を図り、危険予測に気を配っている		

グループホームさくらプラザ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年1回の蘇生法講習の受講や、日常で医師や看護師等の指示や指導を受けて、知識・技術の向上を図っている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年4回の避難訓練の実施や、防災センターでの体験学習を通して、利用者様・職員が協力して有事に当たれるよう心がけている。地元の消防団に協力を依頼。市役所・消防等と連絡や相談を行っている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	現状や将来像、起こりうる事象の可能性について、説明・相談を行っている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の血圧測定等の健康チェックをはじめ、特変時の観察を行い、職員・管理者および、かかりつけ医に連絡・報告し、早期の対応に努めている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬情報提供書や申し送り等で、指示や主作用・副作用を確認し、確実な援助と観察を心がけている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の摂取や、食品の選択。水分補給。体操。温罌法。マッサージ等の援助を、個人に応じて行っている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個人の状況や生活習慣に配慮した援助を行っている。義歯の方については、入浴時に職員が必ず口腔ケアを行い、観察や清潔保持に努めている		

グループホームさくらプラザ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好や適量の把握に努め、月1回の栄養指導で助言を得ながら援助を行っている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所のマニュアルに沿って対応している		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	栄養士の指導を受けたり、勉強会に参加して知識を深め、衛生管理に努めている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先のスロープ・ベンチの設置。植物の育成等を通して、環境づくりに取り組んでいる		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵画や花を飾ったり、窓を開放して自然の風を体感したり、四季を大切にしたい援助を心がけている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コタツやソファやベンチや談話室などのスペースを設けて対応している		

グループホームさくらプラザ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	馴染みのある物の持ち込みを家族にお願いしている。状態 に応じた環境づくりを心がけている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	換気や空調管理に配慮し、季節を感じてもらえるよう心がけ ている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	危険が予測されるものへの対応や、手すりの設置等で工夫 を行っている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	個人の能力や不安に対して把握し、落ち着いて生活してい ただけるよう心がけている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	花や作物を育てて収穫を楽しんでいます。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホームさくらプラザ

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

季節の行事を大切に思っています。風習や慣わしなどを若い世代に教えていただき、思い出などをお聞きして、継承者としての役割を担っていただいています。園芸作業や会話を通して、育てる楽しみや収穫の喜びを共有し、感情の表出や情緒の安定に努めています。半数の方が90歳以上をと高齢化ですが、若い職員に負けないうらいの元気と明るさが自慢のホームです。医療法人の特性を活かし診療所との連携を図り、24時間365日の医療体制で生活を支えています